

# 日新鐘



伝えよう いにしえの心 あたらしき智慧

甲府中学・甲府一高 創立132周年  
第53回東京同窓会記念誌

ヨクキタ  
ジャン!



S49  
甲斐犬の  
イチコウ

# 山梨縣立甲府中學校校歌

三井 甲之 作詞  
東京高等音樂學院 作曲

一、我等は日本に生まれたり  
神の御代より一系の  
皇統戴く我國に  
生まれしことのうれしさよ  
皇國の榮えは天地と  
共に窮りなかるべし

二、大和島根に山めぐる  
甲斐の國あり水清き  
郷土の歴史顧みよ  
我等の務め輕からず  
見よや南に富士ヶ嶺は  
皇國の鎮めと聳えたり

三、大海原の揺りやまぬ  
波をも風をも凌ぎつつ  
護れ皇國を諸共に  
國民舉りて國のため  
撓まず萎縮まず辟易がず  
進むぞ大和ごころなる

# 山梨県立甲府第一高等学校校歌

昭和23年10月22日制定  
上条 馨 作詞  
小松 清 作曲

一、甲斐の國 み中に建ちて  
古へゆ 雄心伝へ  
新しき 世の鑑とし  
勉めてむ この学舎に

二、日に新た また日に新た  
弥高き のぞみをもちて  
真なる 理究め  
励みなむ 若人我等

三、聳え立つ 芙蓉の高根  
清き哉 甲斐の山川  
もろともに 玉と磨きて  
賛くべし 天地の化育

## 伝えよう いにしえの心 あたらしき智慧

このテーマは、現在日本を揺るがせている東日本大震災による被害を検証する様々な報道に触れる中で生まれた。「想定外」＝想像し、予定していた以外あるいは、以上のこと。

今回の甚大な被害を生んでしまった人間の思考の限界や誤りをそう呼んでいる。そして検証報道の多くは、「本当に予想しえなかった災害規模であったのか?」「本当に予想しえなかった被害であったのか?」という問いかけから始まっていた。

はたして、その問いかけの答えは? 残念ながら、その答えは「否」。過去にすでに同様規模の地震や津波は起きていた。そして、その規模の地震や津波が起きれば、引き起こされる被害の甚大さも当然のことながら、「想定内」の可能性が高いということであった。

何がそれらを「想定外」にしていたのか? それは事実や記録、その事象に立ち向かった人々の切実な想いが、結果として後世に正確に伝えられなかったこと、教えられていなかったことから生じていると指摘していた。そして、そのような未曾有の事態に立ち向かうには、智慧の積み重ね、新たな智慧の結集が必要であることも指摘していた。このような視座は、その眼や想いを災害という分野に留まらず、広く日本社会全体、引いては世界にまで向ける時、あらゆる分野において、必要不可欠な視座であると確信する。

すでに、わが母校甲府第一高校の校歌の中では「いにしえゆ、おごころ伝え」「新しき世の鑑」として示されている。ここに先人の歌詞にこめられた想いに深く共感し、その慧眼に敬意を表すると同時に、改めて甲府中学・甲府第一高校東京同窓会の今年度の結集テーマとして掲げたいと思う。

真言宗 智山派 厄除地藏尊 塩澤寺

住職 佐藤 光政

(昭和四十九年卒)



## 目次

校歌		4
テーマ「伝えよう いにしえの心 あたらしき智慧」		5
ごあいさつ		6
目次		7
特集 伝えよう いにしえの心 あたらしき智慧		
<hr/>		
古き時代を思い出して	辻 信太郎	8
伝えよう いにしえの心 あたらしき智慧	上原 勇七	10
最先端技術も原理は写真から	原 護	12
心身練磨に努めた日々、今も目に胸に	中村 和男	13
伝えることは面白く、また難しい	筒井 真理子	14
古人（いにしえびと）に導かれ	山下 一恵	16
<hr/>		
ふるさと甲府情報		18
一紅会講演会「日本の将来を考えたい」	井上 栄	20
一紅会の未来にエールを！！	飯田 富美子	21
甲府一高この一年		22
在校生 私の夢		24
強行遠足 P T A 同行記		25
100字近況		26
広告目次		28
イベント奏者・表紙作者紹介		54
幹事のつぶやき		55
幹事名簿・編集後記		56

## 「日新鐘」に寄せて



東京同窓会会長  
井上 幸彦  
(昭和31年卒)

昨年の「三・一一東日本大震災」は、わが国社会のあらゆる分野に深刻な打撃を与えた。そんな中で、被災し、厳しい環境下で避難所生活を強いられた東北の皆さんが、礼節を守り、健気に、逞しく、明るく振舞っておられる姿は、世界の人々に「日本人というのは何なんだ」、「こんな過酷な状況下でどうしてあ、した態度が取れるんだ」と深い感動を与え、日本人の資質に改めて感嘆の声をあげさせることとなった。又、東北の皆さんは、震災を通じて、家族、学校、職場、地域社会の「絆」に支えられて生きていくとの思いを強く感じたことであろう。

この震災により昨年の東京同窓会も予定どおり開催できるのか、との危惧の念もあったが、日本全体が、できるだけ早く日常の生活に立ち戻る事が、東北の復旧、復興にも連なるとの思いから予定通り実施し、会場には募金箱を置き、多くの方々から義捐金の協力を戴いたことは意義深いことであった。さて、今年の同窓会のテーマは、「伝えよう いにしえの心 あたらしき智慧」ということだ。この同窓会の場合、学び舎を共にしたという「絆」を改めて確認し、それを強め、「温故知新」を実践する機会なることを切に望む次第である。

## 「ごあいさつ」



甲府第一高等学校校長  
奥田 正直

平成二十四年度 甲府中学・甲府第一高等学校 東京同窓会が盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。また、東京同窓会の皆様には、日頃より本校発展のために多大なる御支援、御協力をいただき心より感謝申し上げます。

特に、昨年度は「同窓会奨学金」への寄付も賜り、生徒の学業、文化及びスポーツ活動への大きな支えとなっております。重ねて、御礼申し上げます。

さて、昨年度の母校の状況について簡単に報告しますと、進路面では、全県一学区三期生も大きな成果をあげ、特に国立大学合格者は百名と飛躍を遂げました。また、部活動でも、全国大会や関東大会へ出場し、中でもアーチェリー部は、関東で悲願の初優勝を果たし、テニス部もインターハイ出場後、日新基金を活用して「がんばろう日本、テニス部プロジェクト」と銘打って、新聞部や生徒自治会とともに東日本大震災の復興支援として、南三陸町や福島でボランティア活動を行ってきました。

今後、生徒の多様な可能性を伸ばす教育を推し進め、「文化の香りがする懐の深い進学校」を目指して、教職員一同努力して参ります。

東京同窓会の皆様には、変わらぬ御支援、御協力をお願いするとともに、益々の御発展と御健勝を祈念いたします。

## 「伝えよう いにしえの心 あたらしき智慧」



平成24年度幹事長  
清水 喜彦  
(昭和49年卒)

本日もご出席頂いた同窓生の皆様、また不安定、不透明な経済環境にも係わらず「日新鐘」に広告を出稿頂きました皆様、物心両面から第五十三回東京同窓会を支えて頂きました全ての皆様に当番幹事一同心から感謝を申し上げます。

本年度のテーマは「伝えよう いにしえの心 新しき智慧」と致しました。このテーマは、甲府中学、甲府一高の良き伝統を次の世代に伝えることは勿論、単に伝えるだけではなく、それに新しい智慧をプラスして残して行きたい、正に「日々新た、また日々新た」とは、そういう事ではないか。震災から立ち直る強い日本はそう有るべきと言う幹事の強い思いを込めさせて頂きました。

昨年のテーマ「いや高く つないだ心 天までとどけ」を引継ぎ、甲府中学、甲府一高の良き伝統を次の世代に「より素晴らしいもの」として伝えて行きたいと思っております。

懇親会では伝統と新しさ、洋の東西の融合を目指して同級生（昭和四十九年卒）の山下一恵さんのお琴と相川達也君のギター及びマンドリンの素晴らしい演奏を楽しんで頂けたらと思います。

本日はどうぞ最後まで同級生や先輩後輩と昔を思い出し、明日に思いを馳せて楽しい一刻をお過ごし下さい。

品だった生糸を生産し、それを横浜港へ運んで利益を得ていたのは山梨県の生糸業者でした。生糸業の成功を皮切りに物を作る製造業でなく、大衆消費産業である鉄道（地下鉄も含む）、海運、電燈、ガス、金融、百貨店で東京に進出する実業家が続々と現れたのです。

また、歴史的に見ると、甲斐の武田一族の滅亡後、江戸の徳川一族は団結力の強い甲斐一族の勃興を恐れ、甲斐の国には城主を置かず、幕府管轄領として代官所を作り、代官を江戸から派遣することで、この地方を管理しました。

その派遣されて来る代官には、当時、江戸でも遊興好きと言われた旗本が多く、甲府近番に任命されるやご鼠肩の役者、芸人、踊り子、花魁をはじめ、演芸場そのものまでも甲斐の国に持ち込み、それによって甲斐の花柳界は盛況を呈しました。これは、やがて、甲府から文化人を生むきっかけになりました。

土壌的に恵まれなかったことから奮起して別の活路として実業の道を選び、成功を収める実業家が明治以降、多く表われ、やがて、その集団は甲州財閥と呼ばれて、滋賀県の近江財閥と並び称されるまでに実業界、特に大衆産業で大きな力を発揮するようになります。

そして、その企業家たちは文化や芸能も大切に引き継ぎ、根津美術館、宝塚劇場などの大衆文化の発展に貢献しました。このように、事業と文化を両立させた山梨県民は、寛政年間、甲府城の南に甲

# 古き時代を想い出して

## 辻 信太郎

（昭和二十年卒）



辻 信太郎（つじ・しんたろう）  
昭和2年甲府市生まれ。甲府中学（現・甲府一高）を経て桐生工業専門学校（現・群馬大学工学部）卒業。昭和24年、山梨県庁に入庁。昭和35年に山梨県庁を退職し、株式会社サンリオを設立（代表取締役社長〈現任〉）。平成2年、東京都多摩市に「サンリオピューロランド」、大分県に「ハーモニーランド」のテーマパークをオープンさせる。



日新鐘と制服姿のキティちゃん

後姿もかわいい！



甲府中学時代の辻氏

府学問所を設置しました。それが一八八〇年（明治十三年）十月、山梨県中学校となり、一八八二年には（き）典館（てんかん）、一九〇六年からは私が在籍した山梨県立甲府中学になりました。

ここでは、有名な大島正健校長が札幌農学校のクラーク博士から教えられたという「BOYS BE AMBITIOUS!」少年よ、大志を抱け！の教えが掲げられ、一九二六年当時の江口俊博校長は「日に新たな鐘を製造なさって、私たちに未来への大きな志（夢）と日々変化を求めることの意義を教えてくださいました。」

さらに、この学校の伝統行事として、年一回行われる強行遠足がありました。私たちの時代は長野県松本を目指して歩いたのですが、それは、どんなにつらくても苦しくても目的地に向かってただただ二十四時間歩き続けるという初めての経

想い返してみると、私が甲府中学（現・甲府一高）に在学していたのは、今から七十年近く昔のことになります。

私が生まれた一九二七年当時の山梨県は、日本四十六都道府県中で最下位と言われるほどの貧乏県でした。山梨県は郡内と国中で分かれており、郡内地方は富士山の溶岩地質、国中地方は四方を山に囲まれ、その山間から流れ出る笛吹川、釜無川など多くの川が運んでくる土砂によって川底が上ががり、川が道路よりも高いところを流れる天井川と呼ばれる地形で、南の地区は大雨のたびに氾濫を起こしていました。どちらにしても地形的に恵まれない土地であったため、山梨県は貧乏県であることを認めざるを得ませんでした。

そのため、何とか、その貧しさから脱却しようと思んだ者には、二通りの道がありました。

一つは、一獲千金を求めて、博徒となった者たちで、黒駒（くろこま）の勝蔵（かつぞう）、祐天（ゆうてん）、吉松（きちまつ）、竹居吃安（たけいきつやす）といった有名な賭博師たちは山梨の出身でした。

その中から、ある者は南の富士川を下って、清水次郎長一家に合流し、ある者は東の秩父山脈を越えて、群馬の国定村の国定忠治の下で一家を成したと伝え聞きます。

一獲千金を求めた博徒が多かった一方で、事業を興して、それを成功に導いた者も数多くいました。当時、唯一の輸出

験でした。二十四時間以内に目的地の松本にたどり着けなければ、そこでタイムアウトになってしまうのですから、精神的にも肉体的にも相当きついものでした。

私が松本にたどり着くには、二十三時間四十分かかりました。あの時の苦しさと言ったら、後にも先にも覚えがないほどで、その時のことは今でも鮮明に記憶に残っています。しかも、到着した途端、足が少しも上がらなくなってしまい、三十センチほどの溝さえ跨ぐことが出来なかったことや、そのあと、中央線のデッキにうずくまって甲府駅まで帰ってきたことなどを七十年近く経った今も時々懐かしく想い出します。

この強行遠足は、中学生の私に、やり始めたことを最後までやり抜く不屈の精神力を教えてくださいました。

その強い精神力を持って、大志を抱き、日に新たな日々に変化を先取りして生きることに、一方で伝統を大切にすることを私は甲府中学（現・甲府一高）で学びました。

こうして当時のことを想い出すと、かーん、かーんという日新鐘の鐘の音が今も私の耳に聞こえてきます。長い歴史ある甲府中学（甲府一高）の生徒であったこと、その卒業生であることは私の誇りです。

この伝統ある学校の存在を心の糧として、卒業生、在校生は日本のため、いいえ、現在においては世界の平和と繁栄のために大いに努力してもらいたいと思っています。

# 伝えよう いにしえの心 あたらしき智慧



## 上原 勇七

(昭和二十七年卒)

うえはら・ゆういち  
 昭和八年生まれ。山梨学院大学政経学部卒業。  
 昭和四十八年 株式会社印傳屋 代表取締役会長  
 昭和四十九年 甲府印伝商工業協同組合理事長  
 昭和五十八年 財団法人山梨県甲府・国中地域地場産業振興センター副理事長  
 平成二年 ローターインターナショナル第2620地区ガバナ  
 平成七年 株式会社山梨県産品センター 代表取締役社長  
 平成十年 財団法人伝統工芸品産業振興協会 理事  
 平成十九年 甲府商工会議所 会頭

昭和二十年七月六日夜半、米軍機 B29 の空襲により甲府市の約半分が焼失。印伝屋も母屋をはじめ座敷棟、四棟の蔵も全焼。当時私は富士川小学校の六年生でした。  
 父は知人を頼りに北巨摩郡鳳来村鳥原（現在白州町）に疎開。私は鳳来小学校に通学する事になりました。  
 私はこの鳳来村での生活約七ヶ月位、今迄、全く経験した事がなかった生活習慣、その地域の仕来りを体験し、大変勉強になったと今でも感謝しております。

昭和二十一年新春、甲府中学の入学試験を受ける事になりました。鳳来小学校からは私一人先生の付き添いもなく一人で入学試験を受けに行った時の状況、今でもなつかしく思い出します。他の学校の生徒は先生の指導のもと受験をしている様子を比較し、ちよつと寂しさを感じた事を今でもよく覚えています。  
 甲府一高で体験した勉学の心は伝統校としての規律と“Boys be Ambitious”の精神を糧として今後の各自の進むべき道をしつかりと見極める事を教わり大変感

謝しております。又、多くの友人と知り合う機会となり、その後の人生の大きな支えとなりました。  
 私の幼名は重雄と名付けられました。当家は長男に重をつける習わしになっており、私の父は重治、私の長男は重樹、孫は重哉と名付けました。  
 戦後十年、印伝の仕事もやつと軌道にのりはじめた矢先、昭和三十年十一月父が脳出血により五十六歳で他界致しました。当時父は襲名により十二代勇七を名乗っておりました。父の死去により私は二十二歳で上原勇七を襲名する事になり、現在に至っております。  
 ここで印伝の由来についてふれておきます。

印度伝来から印伝（二説）と云われております。佛教と共にシルクロードを経て日本に伝わったとも云われております。当時日本で調達できる鹿皮と漆を原料として今日に伝えられたものと考えられます。

漆は英語で Japan といいます。  
 奈良、平安時代 東大寺所蔵 文箱（国宝）  
 正倉院御物 経本カバー  
 （印伝博物館に展示）公家が愛用した鞆（けまり）また戦国時代に入り武具として鎧（ヨロイ）に用いられたり、一説によると武田信玄公が印伝の中着に砂金を入れたとも云われております。  
 昭和三十年〜四十年 国内観光旅行ブーム、県内外の土産品販売店及び、ホテル売店へ納品、北海道から九州迄、一



漆付け技法

時期札幌、松山に営業所開設。しかし、昭和四十年頃より海外旅行が盛んになり将来の国内旅行の衰退を予想。新しい市場の開拓の必要性を予感し、札幌、松山の営業所を閉鎖すると共に今後の対応を検討。  
 結果として専門店、デパート、問屋を対象に昭和四十三年、池袋に東京営業所を開設。その後、高度経済成長の時代を予測。昭和五十六年、東京青山へアンテナ



巾着



LICALIA (リカリア)

ナショッブとして直営店を開設。この対応は以外にも社内での活性化に結び付く効果が大きかったと存じます。次に印伝の歴史は着物（和）の時代に育てられ今日に至っており、この脱却は如何にするか。  
 昭和五十八年、約二年の歳月をかけ Carry（キャレイ）シリーズを開発。その後、毎年一ブランドの開発を継続。これはお客様はもとより、社内での活性化に重要な役割を果たす結果に。  
 平成二年 大阪心齋橋店オープン  
 平成六年 甲府市川田町に新工場オープン 協同組合ファッションシティ甲府（通称 アリア・デイ・フィレンツェ）  
 平成二十二年十一月 名古屋御園店オープン

### 当社の指針

- (1) 人間尊重の事業経営  
出光興産 出光佐三氏の提唱
- (2) 企業の信用の構築  
品質、価格、アフターケア
- (3) 伝統の継統  
不易と流行の見極め
- (4) 日本の文化として海外市場への挑戦

右記の指針を目標に今後の企業経営を推進して行く所存でおります。



昭和20年頃の印傳屋 上原勇七店舗のようす

人類が創ってきた重要なものの一つに科学がありますが、その中の一つであるエレクトロニクス分野は、このわずか五十〜六十年間において飛躍的な進歩を遂げてきたことが実感できるのではないかと思います。

半世紀前の私たちの身の回りのものを出すと算盤や四角な顔のような電話機、毎日ねじを巻く時計、太陽光を使った複写、蛇腹のカメラ等が、懐かしく思い出されますが

今現在皆様が使っておられるパソコン、スマートフォン、等の電子機器をはじめ、家庭電化製品、産業機器、人工衛星、自動車、航空機等と比較すると、これがたつたこの半世紀の間の変化であるのかと、驚きの感に堪えません。そしてこの変化をもたらした最大の要因はエレクトロニクス技術の進化であり、それに伴うコンピュータ技術の発展に負うところが多いのではないかと感じております。現代最先端のこうした機器の中核となる機能はIC、LIS等に代表される、半導体(ある条件によって電気を通す時と通さない時がある性質の物質)を利用した電子部品等で構成されており

一九六〇年代に発明されたICはまだ五十年の歴史しかありませんが、最先端の技術で作られたICは驚異的な性能を実現しております。パソコンに大量に使用されている記憶のためのメモリーであるDRAMを例にとりますと次のようになります。

最先端のDRAMは2ギガビットの容

今も思い出すのは四月の入学式。桜満開の時、夢と希望と胸を膨らませていた僕の耳に入ってくるのは戦中の勇ましさを鼓舞するような応援歌でした。

起て起て健男児  
覇気ある健児よ  
自彊の盾をば振りかざし  
破邪の剣とりて起て  
撃てや懲らせや  
われらが敵を  
撃ちて勇姿を  
世界に示すはこの秋ぞ  
フレール フレール 一高

新入生は全員、応援団に日本男児の心意気と愛校精神を叩き込まれたものでした。一九六〇年代、華やかなアメリカ文化が日本に流入し、それが急速に伝播していた時代でしたが、日本男児としての真髄は、思春期の新鮮な心にストンと落ちてきて、今でも僕の心の中に宿っています。

当時の甲府一高は、質実剛健の校風で、寒い冬でもストープを使わせてもらえずに僕らは寒さで震えていましたが、極寒の中でも一本歯の高下駄で登校していたバンカラもいました。肩で風を切り、豪傑然とした姿はなかなか格好が良いものでした。

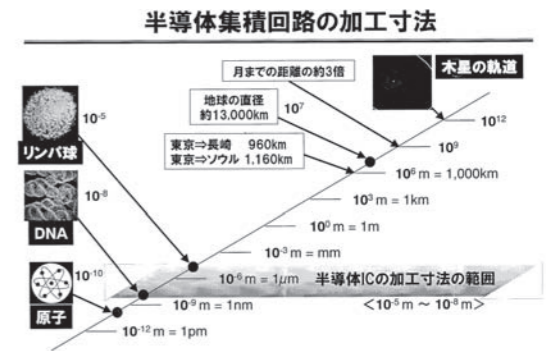
毎年行われる競歩大会では、疲れと睡魔に襲われながらも、二十四時間歩き続けます。まさに、己との戦いであり、精

# 最先端技術も原理は写真から



## 原 護 (昭和40年卒)

はら・まもる  
都留市生まれ。  
慶応大学法学部卒業後、東京エレクトロン株式会社入社。  
代表取締役専務執行役員を経て現在は常務監査役。  
趣味 / 読書、飲酒、ゴルフ  
「これからの人生も楽しく過ごしたい」が今の一番の願い



量で、約1センチメートル角の中に二十億ビットのデジタル情報を収納できます。つまり1センチメートル四方の中に1 billion(十億)個の部屋を二十億個作るということになります。この記憶部屋数だけでも驚くべきことです(因みに二十億ビットの情報は五百ページの文庫本四百冊分に相当)。

これらを作るためには三百ミリメートルのウエハー(シリコンでできた厚さ〇・八ミリメートルの円盤状のもの)にコンセプトとして確立している写真の技術(一八〇〇年代の前半に発明)を駆使して加工をして最終的にそのウエハーを数百個の個片に切断して、一つのDRAMが生まれます。ウエハーを加工していくプロセスですが超微細な加工技術のため、実感がわきませんので、ウエハーの寸法を二十五万倍に拡大したとして考えてみます。そうすると先の三百ミリメートルのウエハーは直径七十五キロメートル、厚さに百メートルの大きさになり、この基盤が写真でいうとフィルムのポリエステル部分になります。この表面に写真では感光材に相当するレジストを、厚さ五センチメートル、厚さのばらつきが二十五ミリメートル以下の精度で均一に塗布します、約四千五百平方キロメートルに相当する面積に塗るのです。

その上に紫外線領域の短波長の光で回路パターンを露光した後、数百工程にもなりますが現像したり、削ったり、穴をあけたり、絶縁膜を堆積させたり、洗浄したり、薄膜をコーティングしたりして、

電子回路を形成していきます。たとえば穴あけの場合は、約四千五百平方キロメートルの円内に直径二十五ミリメートル、深さ一メートルの穴を、一千億個以上、同時にしかも均一に形成したり、同面積内の広さ内に散らばった大きさ五センチメートル、数十個ほどの異物を除去したりします。このようなことを何回も何回も繰り返して製品となっていくのです。直径七十五キロメートルという東京八王子と千葉の距離になります。これを二十五万分の一に戻し切断すると先の一平方センチメートル角のものになります。実際のICの中の配線は数十ナノメートル(ナノは十億分の一メートル)の線幅で描かれています。最先端のICがいかに微細加工されているのかイメージできることと思います。

この気の遠くなるような技術も原理は写真のコンセプトではありますが、現在の姿にまで進化してきたのは、長い時間をかけて人類の諸先輩が築いてこられた、化学、物理、電気、通信等をはじめとする科学のたまものであると同時に、より良いもの、より価値あるものをより早く、より多くの人々に届けたいと願う、現代の人々の情熱と努力によるものです。

今私たちは、これらの遺産に、さらに付加価値をつけて、若い人たちに引き継いでいきたいと思っております。

今回のテーマである「伝えよう、いにしえの心、新しき智慧」を考えたとき、自分の職業分野ではありませんが、最初に浮かんできたのはこのようなことでした。

神と肉体への鍛錬に極めて効果があったと思います。このような心身練磨の環境は、僕の心の安定と集中力の持続・向上をもたらしてくれました。

また、校是の一つでもある「苟日新、日日新、又日新」。中国の殷王朝を創始した湯王が毎朝顔を洗う器にこの言葉を刻み、毎日新しい心で生きていくことを自戒していたとのこと

とです。毎日、今日という新しい日を迎えるのだから、今日一日に全力を尽くそうという意味です。

僕が四十五歳で大手製薬企業を退職し、日本で初めてCRO(医薬品開発受託機関)を創業。臨床試験、創業、科学技術振興などに関わる多数の国家プロジェクトに参画。アメリカの代表的芸術家「キース・ヘリング」のコレクションのみを展示する世界で初めてのプライベート美術館を山梨県北杜市に開館

## 中村 和男 (昭和40年卒)

なかむら・かずお  
シミックホールディングス株式会社  
代表取締役会長兼社長 薬学博士  
京都大学薬学部製薬化学科卒業  
日本最初のCRO(医薬品開発受託機関)を創業。臨床試験、創業、科学技術振興などに関わる多数の国家プロジェクトに参画。アメリカの代表的芸術家「キース・ヘリング」のコレクションのみを展示する世界で初めてのプライベート美術館を山梨県北杜市に開館



社会的な位置づけを確立するため、啓発・広報活動、行政との折衝などに奔走してきました。そして、一九九七年、法的に明確な位置づけを得ることができ、これを機に会社は成長軌道に乗ることができました。それまでは決して順風満帆ではなく、一日一日を懸命に働きました。昨日のことをよくよと思わずに、明日のことを思い煩うこともなく、「今日」を精一杯に生き切ることに徹してきました。気がつけば二十年。数人の仲間と始めた小さな会社は従業員数千人を超える企業グループになりました。明日は何があるのかわからないのだから、「今日」できることは今日やり遂げる」を心がけ実行してきました。

ただし、僕がそれを継続してできたのは、ビジネスとして成長させたいという気持ちの一方で、旧態依然の産業構造にイノベーションを起こしたいという強い思いがあったからです。「仕事」より「生きがい」に近いものかもしれません。生きがいだからこそ、情熱と魂のすべてを注ぎ込むことができました。夢を叶えるには、やはり地道な努力の積み重ねしかないのです。毎日生きがいに向けて、今日という一日を大事に、充実させてきたからこそ、今の僕があるのだと思います。そして、僕が長年に亘り、その揺るぎない意思を持ち続けられたのは、一高で鍛えられた心身練磨の賜物であると感謝しています。

# 『伝えることは面白く、 また難しい』

## 筒井 真理子 (昭和 54 年卒)

出身地：山梨県 早稲田大学卒業

経歴：早稲田大学在学中より鴻上尚史主催「第三舞台」に参加。代表作は「ビー・ヒア・ナウ」ピルグリム」等。その後、舞台をはじめ映画・テレビ・CMと幅広く活躍。'94年映画「男ともだち」(山口巧監督/東京国際映画祭参加作品)で主演デビューをはたす。以後、多彩な作品に出演。主な映画出演作品に「クワイエットルームによるこそ」(松尾スズキ監督)、「アキレスと亀」(北野武監督)、「ヒーローショー」(井筒和幸監督)他多数  
11年11月～12年1月第三舞台 封印解除 & 解散公演「深呼吸する惑星」に出演

茂田オフィス  
〒107-0052 東京都港区赤坂 9-5-29-303  
Tel 03-5410-8585 Fax 03-5410-0588



私の続けている「俳優」という仕事は、演技を通して観客に目に見えない何かを伝えることだと思っています。ですが、この伝えることこそが難しく「実は世の中の半分以上は誤解の上に成り立っているんじゃないか？」と思うこともあるくらいです。例えば、私はどちらかというと話して説明するのが苦手です。言葉を誤解されて「そういうつもりじゃないのに」と冷や汗をかくこともしばしば。思えば学生時代からそうでした。時には思いがけず都合よく解釈してもらえこともありましたが…。

これは甲府一高時代の事です。当時、私は禁止されていたパーマをゆるくかけセミロングの髪型をしていました。ある日美容師さんの勧めで気分転換にバツサリとショートボブにしたことがあります。

短く切り揃えた襟足は当時でも斬新な仕上げで、私としては都会的なオシャレな仕上がりに満足していました。

翌日、一高の講堂で集会があり、担任の先生の目に私の刈り上げが飛び込んだ様子で

「全校生徒の皆さん！筒井さんを見なさい」

私が真っ赤になって言い訳を考えたその時、

「先日パーマを注意したら、さっぱりと髪を切ってきました！筒井さんを見習ってください！」



私は先生の意外な言葉に耳を疑い、「え？いや、反省した訳じゃなくて…私的にはオシャレのつもりなんだけど…」それからというもの、私に先生は目が合うたび優しい微笑みを向けてくれるようになりました。小さな誤解でしたが、先生との関係がよくなり、その時こう思ったのです。

「誤解から好転することもあるんだなあ」と。

今だから言えますが、髪を切った本当の理由は親しい友人にしか話しませんでした。

た。

また最近ではこんなこともありまして。私たち俳優は映画やドラマの仕事が決まると最初にあるのが、衣装合わせです。衣装合わせは、役のイメージを形作る大事な作業で、監督やスタッフと初めて顔を合わせる緊張の瞬間でもあります。まず衣装さんと監督が事前に打ち合わせて用意した衣装を一着ずつ広げ、みんなで検討することから始まります。

あるドラマの衣装合わせで、いつものように衣装さんが衣装を広げた時、私は瞬時に自分の役のイメージやシーンを頭の中に巡らせ考えました。「うーん…」

思うのです。誰かと何かを共有したくて、伝えたくても言葉だけではうまく伝えられない。それが「演技」に向かわせたのかも知れないと今ではそんな気がしています。

大学で演劇の世界に入ると、舞台上での表現の難しさ、今まで経験のなかった集団でのコミュニケーションなど新たな壁ばかりでした。

それでも、私は少しでも人に伝えることが上手くなりたいと過去の先人たちの本を読み漁りました。リー・ストラッスバーグの「アクターズスタジオ」「演劇入門」「朗読入門」etc…。

その中に世阿弥の「花伝書(風姿花伝)」がありました。世阿弥が父・観阿弥の口述筆記をしたもので世界でも最も古い体系的に優れた芸術論だそうです。「花伝書」

を読んでいると、とても六百年以上も前に書かれたものとは思えませんでした。今の私たちの演劇にも共通することばかりだと驚いたことをよく覚えています。

「花伝書」を現代語訳した川瀬一馬さんも、序章でこう書いています。「花伝書は何回講じても、講ずる度に日に新たな感じである」

「花伝書」の中で世阿弥は「自家の子孫が能の専門家として守るべき教えを残した次第である。」と書いています。まさに「いにしへの心を今に伝えている」のです。それは演技論だけではなく、ものの考え方、とらえ方として今に通じているのです。

「唐人」という項目にはこうあります。

「物まね(能においての)はそっくりまねてみてもおもしろいとは思われない。ただどこかひと様子だけ唐めいた風に工夫

するのが良い。この写真とは変わった格好でやるのがかえって本当らしく見える」ということは、一寸したことのようにだが、物まね全般にわたる工夫である。」

本当らしさ、今というリアルとは何なのか、私は表現の原点に触れた気がしました。

「問答条条」にはこうあります。

「どんな下手でも、もし善いところがあると思つたら上手なものもこれをまねるが良い。これが上達の第一の方法だ。上手の悪いところがあつたら未熟な自分にはさだめし悪いところが多いだろうと気をつけ他人に尋ね、自分で工夫するならば、速やかに上達するであろう。慢心せず自分の良いところ悪いところを知るべし」

謙虚に学ぶ姿勢を痛感しました。

つい先日、ある外国の名俳優が師と仰ぐ人が書かれた本を読みました。内容が「花伝書」と共通するところが多かったので、また「花伝書」を本棚から取り出しては再読している日々です。国や文化や時代が違っても、人間はいつも誰かに「自分が知り得た大切なことや知識」を伝えようと懸命だったのではないのでしょうか。

「あ、いえ、違うんです…大丈夫です。」私は衣装には何の不満もありませんでした。ただ衣装さんが私に氣遣って下さっただけで、いわゆる日本人の美德である「察する心」でした。でもそこには、確かに小さな誤解が生じてしまったのです。

山梨にいた学生時代から、どこか私は人と意見を分かち合うことに敏感だったのかも知れません。特に自分の気持ちや意図が伝わらず、歯がゆい思いをすることが多かったように思います。

ですが、自分の本意を上手く伝えることがいくぶん苦手で、毎日小さなもどかしさを感じていたことが、後に私を俳優という道に進ませたのかも知れないとも



時を越えて人生の先輩たちが、そのすべを残してきてくれたことが頼もしく、今それを享受できることが有難く思います。そして「伝える」ことはなんと深く面白いことかと気付き、生涯をかけた私の仕事と実感しました。これからも一つ一つの役を丁寧に演じて行きたいと思えます。

# 古人(いにしえびと)に導かれ



## 山下一恵 (山下名緒野)

(昭和四十九年卒)

やました・かずえ (やました・なおの)  
 東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業  
 幼少より母都築声に箏の手ほどきを受ける。  
 鳥居名美野先生に師事 現在に至る  
 東京芸術大学非常勤講師を経て、洗足学園音楽大学組歌講座講師。  
 NHK「邦楽のひととき」「邦楽百番」「邦楽花舞台」に出演。  
 本曰、アトラクションにおいて演奏予定。

私たちが生まれ成長するまでの間には色々な事があります。成長してからは、さらに様々な事に見舞われ、悩みます。そして人生の秋を迎えては、(同窓会の当番幹事を済ませた頃)「あるがままに受け入れる」という禅の境地に少しでも達したいと気取ります。平安に生きた古の人々はどうのように物事の優先順位を決め、どのような事象にどのように心を尽くしたのでしょうか。

私はおよそ四百年から二百年前に作られた古典音楽を学んでおります。専門は江戸時代中期に江戸で生まれた、三絃を伴った弾き歌いを原則とする山田流箏曲です。歌詞の題材は「源氏物語」「平家物語」「古今和歌集」が多く、まさに古人が主役

であり、演奏するときは古人の意識に倣い、隠れた思いを理解しよう心がけます。音楽からの理解ですので、かなり偏っているかも知れませんが、古の人々が如何様であったか、私の箏曲への思いも込めてご紹介してまいります。

多くの曲のテーマは恋愛や左遷のうらみです。現代人も抱えてる大きな問題ではないでしょうか。遠くへ追われた者は「小夜更けて鳴く千鳥 何を思ひあかしね うきよを須磨の恨みにて 我とひとしき涙かや」と。女性同士の勢力争いは「葵の上のときめき 賀茂のものみのをりからに くるまあらそいつれなきは 深きうらみなるべし」。

許されざる恋は「人目しのぶのなかな

れば おもいはむねにみちのくの 千賀の塩釜なのみにて へだててみをぞこがるる」恋の喜びは「八十の翁 こいにこしをそらいた」。恋のため、大いに若返ったということですが、今も少しも変わらない感じですね。

では、自然に対する美学や人生観はどうであったでしょうか。散るからこそ桜は愛しい、と言い切ります。川の流れば常に変わるから人生そのものと言ひ、夏と秋が行き交う空を感じ、月は満ち、満ちたら欠けるからおもしろいと。そして、北へ渡る鳥に名残惜しみ、同時に満開の桜や人との出会いを楽しみます。

なんとも複雑で貪欲で繊細です。現代の私たちも満月を見れば昔の人も見ていた



のだと感慨を抱き、偶然桜に出会えば足を止めます。心を奪う美しい景色も、奪われる人の心も、変わっていないではありませんか。

数ある曲の中で私が最も憧れる曲に「四季の曲」という三百六十年ほど前に作られたものがあります。この曲を通して、古人と一緒に春、夏、秋、冬を楽しんでください。

春、「春は梅に鶯、つつじや藤に山吹。この詞を歌いながら箏は梅の匂いや、春の色、そして鶯の鳴き声を連想して奏します。そして「桜かざす宮人は花に心うつせり」四季の中で春が一番好きだと思ひ、「心うつせり」と歌います。

夏、「夏は卯の花、橘、あやめ、蓮、撫子、風吹けば涼しくて」。暑い時に吹く風は今でも格別です。箏はそれぞれの花の姿に相応しい音を出します。涼しげな風を耳から肌感じられるよう十三ある全ての糸をかき流します。そして「水に心うつせり」暑い夏もいいものだと思えてきます。やはり、夏が一番好きだと思ひます。

秋、「秋はもみじ、鹿の音、千草の花に

松虫、雁なきて夕暮れの」。出だしの音は既に秋の音でなくてはなりません。千草が秋風にそよぐ様子や、つま恋う鹿の声や、松虫の鳴く声がそのまま伝わるような気を配ります。「月に心うつせり」。秋の月は心に染み渡ります。

冬、「冬は時雨、初霜、あられ、みぞれ、こがらし、さえし世のあけぼの」。歌詞は次々と自然現象を述べます。同じ奏法をもつて春夏秋冬とまるで違う空気が伝わらなければいけません。そして「雪に心うつせり」。

この曲の歌詞はなんて単純でしょう。箏の旋律や奏法も極めて単純なものです。古典音楽の大半は、最後に世の無常を伝えます。しかしこの曲は四十余文字のうち、人の感情は七文字のみ。他は自然にあるものを並べているだけです。最後の「心うつせり」、この一句と偉大なる作曲家 八橋検校の手により、古人の美学と禅の心が伝わって来るのです。

虫の声、風の音、水、雷、雪、花、木。古の人々はこの世にある全てのものに意味を見出し、心を奪われ、昨日と今日の空気の違いをかきわけました。そして、音楽に携わってきた人々は、このような豊かな、また、繊細な心や、自然の変化を一瞬の「間」や「一音」で表現しました。

しかし、明治時代を迎え、文化革命とでも言うのでしょうか、そのような音楽家達の間でも、平安の頃から続いていた音楽の価値が覆されました。第二次世界大戦後はなおさら、古典音楽を志す者は

少数派になってしまいました。私自身寂しく、この先心配になっておりましたが、近年、古典回帰の傾向が強まってきました。先人が真摯に守り続けてきた古典音楽というものは、それだけ奥が深いということなのでしょう。それと同時に、現代に生きる私達の内にも、古人と同じ日本人としての心が確かに受け継がれていると感じます。

私は何百年の間残ってきた曲を演奏するたび、古人の美意識を共有でき、最高

の幸せを感じます。そしてこの幸せを与えてくれた先人たちに感謝を込め、次の世代に伝え残さねばと思ひます。

演奏の技術だけでなく、音楽を通じ、古人に倣い、欠けた月は必ず満ち、散った桜はまた咲き誇り、悲しい別れも新しい出会いも全て受け入れ、心ゆくまで楽しもう、という思ひも。







④NHK甲府放送会館

平成 24 年完成。情報発信、文化の創造。温暖化対策機能を備えている。



⑤甲府北口広場

平成 22 年整備。



⑥甲府北口多目的広場  
(よっちゃばれ広場)

平成 22 年整備。憩いの場と多目的な交流可能なイベント広場として活用。屋外トイレも備えている。30 分無料の駐車場も隣接整備されている。



⑦藤村記念館

平成 22 年完成。武田神社から国指定の重要文化財である旧陸沢学校校舎を移築されており、すでに見学も可能となっている。



⑧新山梨県立図書館

駐車場もなく、館内スペースも手狭になったため移転。平成 24 年 11 月開館予定。



⑨甲府市歴史公園

そもそも甲府城は、武田氏滅亡以降に、豊臣氏そして徳川氏の治世の頃に築城され、1873 年に廃城となった。その後、建物の廃棄が進められてその跡地の多くは、官業施設となった。戦後は、価値有る史跡として発掘事業が行われた。平成 19 年完成。山梨県甲府城の追手門、山手渡櫓門を復元し、歴史的景観を伝え、合わせて、将来的に集客性のあるイベント使用が目的の広場との回遊性も高めようとしている。

⑩甲州夢小路

平成 24 年着工予定。歴史公園等と連携を図り。民間事業者による歴史観光型集客施設となる予定。

# ふるさと甲府情報

歴史的な視点を交えながら、新たな甲府の玄関口としての機能を備えるべく変容を遂げつつある甲府駅北口の姿の今をお伝えしたい。



甲府駅北口整備のイメージ

- ①甲府地方合同庁舎 (仮称)
- ②甲府中央消防署
- ③市営第一自転車駐車場
- ④NHK 新甲府放送会館
- ⑤甲府駅北口広場
- ⑥甲府駅北口多目的広場
- ⑦甲府市藤村記念館
- ⑧新県立図書館
- ⑨甲府市歴史公園
- ⑩甲州夢小路

※ 甲府地方合同庁舎 (仮称)、NHK 新甲府放送会館、新県立図書館については、甲府市が仮に想定した建物です。



取り壊し前の甲府駅北口(昭和59年)



現在の甲府駅北口



①甲府地方合同庁舎の完成

平成 24 年 1 月完成。9 の省庁出先機関が機能連携を図るためまとまって入る予定。



②甲府中央消防署

平成 19 年完成し活動している。中心地の防災強化を目的としている。



③市営第一自転車駐車場

平成 19 年完成。駅機能の利便性と省エネ温暖化対策として。

# 日本の将来を考えたい

第15回「一紅会」主催 春の講演会

## 井上 栄 (昭和33年卒)

いのうえ・さかえ  
東大医学部卒、同大学院修了 医学博士  
元・国立感染症研究所感染症情報センター長  
2001年大妻女子大学家政学部教授(健康教育)  
母子健康手帳活用推進協会会長



左から清水幹事長、一紅会瀧田幹事、井上講師、一紅会飯田会長

三月十日の春の講演会ではたくさんの方から「良かった、面白かった」との感想をいただき、演者としては話し甲斐があったと満足しております。

この講演内容に関しては、一紅会会長の飯田富美子さん(昭和三十三年甲一卒)の意気込みを感じていました。三・一一大震災のあと人の絆の大切さが認識されましたが、飯田さんは私が大学でやっている「母子手帳教育」が親子の絆を強めるのに役立つとの話をどこかで聞かれ、一紅会講演会でも話して欲しい、と私に言ってこられたのです。昨年の九、十月に他所で行った私の講演に井上若子さん(昭和三十年卒)と一緒にわざわざ聴きにいられて、感想を述べてくれました。その後も何回かの打ち合わせをし、本講演では女子学生の母子手帳感想文の朗読を甲一同窓の若手俳優・神谷(石井)ひとみさんに頼むという演出までしていただきました。

さて、少子化がこのまま進めば日本という国はいずれ消滅します。現在生きている我々には、子孫のために、自分の寿命を超えたはるか先の日本の将来を考える責任があるでしょう。講演では少子化対策として次の二つの提案を述べさせていただきました。

青年期の若者に母子手帳を母親と一緒に見させる教育は、親子の絆を強めるだけでなく、この教育が全国に普及すれば、子ども虐待防止にも少子化対策にもなるでしょう。高校高学年から大学新入生を対象にするのが良いと考えています。今まで母子手

帳が教育に使われる場合は、小中学校で児童生徒に自分の予防接種歴や成長記録を調べさせることでしたが、それとはまったく違った目的になります。この教育に副読本が必要と考えていたところ、大修館書店が秋に出版してくれることになりました。

第二の提案ですが、若い夫婦が二人以上の子を実際に産める社会にする必要があります。現代の核家族社会では、①高齢者は子と同居しないので面倒をみてもらえない、②若夫婦の子どもは年寄りに面倒をみてもらえない、ことがあります。①に対しては二〇〇〇年に介護保険制度が出来ましたが、②に対する社会制度は出来ていません。経済が振るわず給料が下がる時代、夫婦共稼ぎでないご家庭が持たせません。その状況では子どもが欲しくても若い夫婦は産むことができずに、少子化はさらに進みます。これに対しては、保育所無料・全入の制度を作ることが必要です。保育所の施設には少子化で廃校になった小学校を使えます。全入にすれば保育士が不足しますが、それに対しては、子育ての経験を持つ熟年女性を活用する仕組みを作るのが良いでしょう。さらに、熟年女性が子育て家庭へ「訪問保育指導」をすれば、子ども虐待も減るでしょう。将来の日本を考えると、①よりもむしろ②の対策の優先度の方が高いのです。

ところで、与えられた講演時間は九十分とたっぷりありましたので、そのうちの三十分は日本の風土の特徴についても話しました。私は三十代の後半に国際協力事業団JICAの仕事でインドネシアに何回も行き、

緑の絨毯に覆われた美しい風景を見て、そこが日本と同様の火山国であり、火山灰や温泉水に含まれるリン酸やカリウムが植物の生長に役立つのは、と考えるようになった。降水量が多く火山が多い国(日本とインドネシアのみ)では植物・食物が豊富であるという自然の恵みがあるのです。一方、火山がある場所では噴火・地震・津波の巨大災害がときたま起こります。そのような風土で日本人は、縄文の昔から天災のときお互いが助け合ってきた。その災害時に自分勝手に行動する人は生き残れなかったでしょう。つまり、助け合いの遺伝子が「自然選択」されてきたとも考えられます。弥生時代以降の水田稲作では共同作業が必要で、さらに助け合いの精神が醸成されたでしょう。日本社会の基盤には「人の絆」の遺伝子と文化とがある。この後半の話の方が前半の母子手帳の話より面白かった、とある人(男性)から言われました。

私は戦前に生まれ、日本が敗戦後の貧しさの中から高度経済成長をして「Japan No.1」と言われた時代を経験しました。その後には「失われた二十年」でした。今、世界を見ると、人類は物質文明と環境破壊との相克の中にいると言えるでしょう。三・一一震災・原発事故の国難を乗り越えた日本人が、世界に新しい生き方を示せるかもしれません。若い人には、日本の風土と歴史の特徴を知り、自信と誇りを持って自国を愛し、この国が将来も持続するように努力をしていただきたい、と願っております。

一紅会は創設十五年の節目を迎えました。この間一紅会を支えて下さいました多くの同窓生の皆様に衷心より感謝申し上げます。ありがとうございます。  
思い起こしますと平成八年、甲府中学・一高東京同窓会の活性化のために少しでも貢献できればとの思いから女性ネットワークを立ち上げました。  
平成九年三月七日十七名の女性幹事により東京会館で設立会合を開いたのが昨日のことのように思われます。  
以前東京同窓会は長い間上野精養軒で行われていました。三百人程入る会場には男性卒業生が大半を占め、僅かな女性は後ろの片隅に肩身が狭そうにして参加していました。治安もあまり良くありませんでしたので、薄暗い不気味な公園の中を足早に会場に向かったのを思い出します。  
そんな折に、三十二年当番幹事が会場を精養軒から銀座東武ホテルに移してくださいましたのを機に、翌年三十三年当番幹事として私は、さらに会場を女性も参加し易いように交通が便利で広い東京会館に移しました。そして一紅会幹事は首都圏在住の女性卒業生達に声をかけ、一人でも多くの方に同窓会へ参加するよう促しました。  
そうした中で開催しました平成九年の同窓会は、参加者が飛躍的に増えて女性参加者も八十名もの大勢になり、総勢五百名近い参加者を得て、華やいた同窓会で大盛況でした。これがベースとなっ

## 一紅会の未来に エールを!!!

一紅会会長 **飯田 富美子** (昭和33年卒)



毎年立派な同窓会が行われるようになってきたことは、一紅会創設当初の目的がそれなりに達成されたのではないかと自負しています。  
一紅会活動の最大行事は、平成十年一月より毎年実施している「春の講演会」です。同窓文化の発展に寄与するために企画した講演会ですが、いつしかみなさんの知識欲と相まって、お陰様で回を重ねる毎に参加者も増えて好評裏に実施し続けております。

財政的なこともありませんが、様々な分野で第一人者として活躍されている同窓生が綺羅星の如くいらっしゃいますので、講演会の講師は同窓生にお願いしています。今まで十五名に講師としてご協力を賜りましたが、毎回会場満杯にご参集の皆様と一緒に言い尽くせない感謝を頂きました。講師の先生方には深くお礼を申し上げます。

講演会を十五回も重ねておりますと、思い出も沢山ありますが、中でも昨年の第十四回講演会は特別なものがあります。開催日が三月十二日、巨大地震の翌日でしたので、やむなく当日早朝に中止を決定しましたが、僅か四時間足らずで、全参加者三十四名様に連絡完了しました。辛い決断でしたが、一紅会の確かなネットワークと強い絆を改めて確認できましたのは大きな収穫でもありました。第十四回講演会はその後場所と日程を変更して盛況に催行することができました。また、講演会を起点に生まれた歴史研



○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

究同好会は今年で十二回を数え、富山県へ歴史散策紀行を実施しました。更に、来名山梨県で開催される第二十八回国民文化祭に参加の第九を歌う会では一紅会幹事を中心に歌好きな面々がレッスンを励んでいます。  
一紅会は東京同窓会の一翼として設立当初の目的を果たすべく努力してまいりました。これからも新役員と六十名の幹事が心を一つにして同窓文化の灯明を燈し続けて行くことでしょう。未来を見据えた魅力的な一紅会の発展のために。

これからも変わらぬエールを宜しくお願い致します。  
最後に 私事一紅会会長として八年有余を充実に有意義に、そして楽しく過ごすことが出来ました。  
一紅会幹事はじめ同窓生皆様のご指導、ご支援に厚く御礼申し上げます。

# 8月 日新基金被災地ボランティア活動

創立130周年を記念して創立された生徒の自主的活動を支援する日新基金で、今年は「がんばらうニッポン！テニス部プロジェクト」が採用され、8月9日から14日まで男子テニス部、新聞部の23名が南三陸町でボランティア活動と取材を行いました。この様子は甲府一高新聞で生徒に伝えられました。



## オープンスクール

8月28日に本校において「オープンスクール」が行われました。午前と午後の2回に分けて、体験授業・部活動披露・施設見学等が行われ、中学生・保護者が約1000人参加しました。



# 10月 第85回強行遠足

10月8日～9日に、本校最大の行事である強行遠足が行われました。今年は天候にも恵まれ、男子は学校から長野県小海まで、女子は須玉から野辺山まで自らの力を試しました。多くの同窓生の方にご協力をいただきました。



## 甲府第一高等学校美術館構想展

17日から23日にかけて校内で甲府一高美術館が開催され、生徒の作品や同窓生の浅川洋さんとの合同作品も展示され、保護者、同窓生をはじめとして多くの方が来場くださいました。

## 新人戦

2年生中心となった新チームの公式戦では、アーチェリー部が全国大会、陸上・テニス男女は関東大会に出場が決まりました。他の多くの部も健闘しました。



# 11月 山梨県高等学校芸術文化祭

11月10日に開会式が行われた山梨県高等学校芸術文化祭には14の文化部が参加し、芸術文化祭賞（美術部・演劇部・応援団吹奏楽部）最優秀賞（新聞部）優秀賞（美術部・自然科学部・文学部・写真部）等多くの賞を受け、文化活動の成果を披露しました。

## 朝日町の活性化一えびず講祭り参加

朝日町の活性化のために、えびず講祭りに「一高ひろば」というブースを設け文化部などが参加し盛況でした。



# 12月 研修旅行

13日～16日に、二年生が沖縄に研修旅行に行きました。沖縄の美しい自然に触れ、平和学習で講話を聞いたり、戦跡をめぐったりしました。

# 2月 同窓会入会式

29日に3年生272名が同窓会に入会しました。

# 3月 卒業式

3月1日、272名の卒業生が母校を巣立っていきました。

## 短期海外研修

短期海外研修に生徒24名と教員2名がオーストラリアの姉妹校ヘンリー高校に3月10日から19日まで、研修に行ってきました。



# 平成28年度 甲府一高 この一年



# 4月 入学式

4月8日入学式が行われました。今年度は、普通科241名、英語科37名、計278名の新生を迎え、本校体育館で行われました。

## 応援練習

4月13日、14日、一年生を対象に体育館で応援団の指導のもと応援練習が行われました。



# 5月 第63回 山梨県高等学校総合体育大会

5月11日、小瀬スポーツ公園陸上競技場で総合開会式が行われました。競技は13日までおこなわれ、本校からは17部総勢415名が出場しました。

一高の総合順位は男子20位(8点)、女子18位(6点)。テニス男子、陸上、ソフトテニス男子、空手、柔道、アーチェリー、の6競技が関東大会への切符をつかみしました。

11日には県内8校の応援団と各校生徒会の生徒が復興を願うエールを東北地方へ送りました。

# 6月 アーチェリー部関東大会団体優勝

群馬県での関東大会で、初優勝という快挙を成し遂げました。



## 一高祭

6月24日から二日間にわたり一高祭がはじまりました。文化ホールで、開祭式のあとクラス発表・文化局発表がありました。二日目は、一般公開でした。たくさんの方が来校されて、クラス展示や似顔絵、部展示、クラス新聞など見ていただきました。

# 7月 全国高校野球山梨大会

第93回全国高等学校野球選手権山梨大会で、本校野球部は7月13日に富士北稜高校に6対0で、6年ぶり夏の大会での勝利を挙げました。

## 学校説明会

普通科が7月17日に山梨県民文化ホールで、英語科が7月30日本校で行われ、生徒主体の運営で好評をおまめしました。

私の夢は看護師として最大限の力を誰かのために尽くし続けることだ。医師のように直接治療を施すことはできないが、看護は想像以上に大きな力を持っている。日進月歩する医療技術とともに私自身も努力を続け、多くの人と関わり命に触れる中で自分自身も成長できるだろう。「日に新た、また日に新た」甲府第一高等学校で身に付けた姿勢を忘れず夢を叶えたい。

平成二十四年卒業生 長田静香

私の夢は建築家になることです。幼い頃から、さまざまな物を創作しようという意欲を持っていたこともあり、一番大きなきっかけは尊敬する父の存在です。父は建築家であり、私に物を作る大切さを教えてくれました。

その中に私が建築家を志すようになった言葉があります。それは「自分の想像、設計した物が実際に現れる嬉しさ」という言葉でした。この言葉は、私の心を動かすのに十分過ぎる魅力を持っていました。そして私はこの言葉を胸に、父を尊敬し父と同じ道を歩み、建築家になりたいと思っています。

三年 小田切覚史

私の将来の夢は県庁職員になることです。志望理由は自分が育ってきた県のことを深く考えることができるからです。

しかし、最近県庁職員による不祥事が山梨県に限らず、相次いで起っています。物事の正否をはっきりと見極められること、それこそが、大人として必要不可欠なことだと私は思います。過去の自分の理想を裏切らない人間になりたい、そのためには、努力を惜しまないようにしたいです。

二年 小澤佑一朗

「ナオコは日本人なのに、なんで英語が話せるの？」シヨクだった。外国人から見た日本人はこの程度でしかないのだ。去年一年間のスイス留学を通して私が痛感したのは、日本人は、「自分をアピールする」という事についての自信が全くない、ということだ。私達は、既に英語を六年以上習っているのに、「完璧に話す」事にとらわれすぎていのではないだろうか。私の将来の夢は国連職員になることである。その舞台で、美しい日本を、もっともっとアピールできる人材になりたい。

三年 荻野奈緒子

# 在校生 私の夢

僕は、強行遠足に魅せられて甲府一高に入学した。小さい頃から水泳と陸上の長距離をやっていたのでそれなりに自信はあったが、初めての七〇kmを超える距離を走ることは想像以上に辛いものだった。しかし、未知への挑戦、自分の限界へ挑戦した後のゴールは清々しく充実感にあふれ、こんな体験ができる一高に入学して本当によかったと思った。僕の強行遠足はあと二回ある。陸上部の仲間とトレーニングに励み、長い強行遠足の歴史に記録が残るようなタイムを目指して走りたい。

二年 望月光樹

私の将来の夢は、情熱を持った体育教師になることだ。私には憧れている先生がいる。その先生は、柔道の顧問でもあった。時には優しく、時には厳しく、どんなに大変でも生徒のことを思いやり、接してくれる先生だ。

「教師」身近だけでなくまだまだ遠く存在だ。「夢」は見るだけでは何も始まらない。自ら積極的にチャレンジし、経験を積んで憧れの先生のような存在になれるように、一日一日を大切に頑張りたいと思う。努力あるのみ。

二年 桂原幸世

私は一高へ入学するとき、一高は何が一番なのだろうか、と考えたことがある。伝統、文武両道、強行遠足。入学当初はこのぐらいしか思いつかなかった。しかし、三年間この一高で過ごし卒業する今、三年前の自分に自信をもってこう答えることができる。一高は一番幸せな学校である、と。同窓会や先生方など多くの人に支えられ私は毎日、本当に充実した高校生活を送ることができた。私は甲府一高の卒業生であることに誇りを持ちこれからも日々、精進していきたい。

平成二十四年卒業生 瀬川紘幹

一高へ入学してから、早くも三年目に突入しようとしている今、私の一高へ対する思いは一高で過ごす時と比例し日々強く熱くなっています。

「温故知新」という言葉の古く、数々の先輩方が築いてきてくださった伝統を基に、更なる一高の発展を目指し、在校生や卒業生を始め、先生方や地域の方など、多くの方々から愛されるような一高づくりをしていきたいです。

生徒自治会長 三年 西野四季

## 強行遠足

### PTAボランティア参加して

佐藤 光政

(昭和四十九年生)

息子の入学に伴い、四十年ぶりに強行遠足に関わることになった。二度とも救護所付近の道路の分岐点の警備案内を行った。

- ① 強行遠足の実施全体については、我々の頃と比べ、相違点(以下に列挙)も多々あり、過ぎた年月の長さも感じた。
- ② 交通量の増加や、安全対策のため、コース中の間道の距離が増えたこと。
- ③ 支援ボランティアの数が参加生徒数とほぼ同数となる位の手厚い体制となったこと。
- ④ 先生方の準備が早くから長い時間をかけて周到に行われていること。
- ⑤ 新たなツールが登場し、学校側でもその一々の扱いに対して指示規定を作成していたこと(スポーツ用品店の強行遠足対策の推奨靴の販売、服装の変化、携帯電話、コンビニの登場等)。

# 強行遠足 PTA同行記



〇〇〇〇〇〇〇〇

息子から、アドバイスを求められた時には、流石に上記の変容もあり、装備品についての話は憚られたが、基本的な考え方やということ、私が先輩より言われた言葉を伝えた。「強行遠足でゴールできるか否かは、体力の問題というよりも行こうという意思を貫けるかどうかの問題だ」と。この言葉を理解してくれたかどうかはわからないが、体力的な不安を若干感じていた息子が、二度とも、何とかゴールできてほっとしている。

今更ながら、世代や時代を超えて、喧々譁々と話の尽きない一高伝統の行事「強行遠足」の有難さを感じている今日この頃である。

### 平成二十三年

#### 強行遠足に参加して

二年 佐藤 正顕

強行遠足への参加は二度目。去年は、一日目の最初から、雨が降り始めて止まなかったため、体は冷えるし、疲れるしとうことで、ゴールは遠く大変だった。初めての強行遠足ということで、父から話を聞いていたが、正直なところはよくわからないままに始まって終わったという感じだった。今年も天気も良く、去年の経験もあり、様子がわかっていたのでゴールへの不安はなかった。

できれば、父達が経験した百キロ以上の強行遠足を経験してみたいと思う。それから、きつところや困っていたところで声をかけてくれた父の友人の方々に感謝している。

## 100字近況

**米山 敬文** (昭和47年卒) 東京大会の学年幹事で集まったことが切っ掛けになり 47 年会を結成、ハイキングを初め新春の七福神巡り等、色々なイベントを行っています。6月9日は千葉にある鋸山の散策です。

**渡辺 正文** (昭和47年卒) 60 歳定年まで残り1年7ヶ月。晩婚だったので子供は高1と中1、独身貴族を謳歌したツケが重く押し掛かっていますが、2年前の東京同窓会幹事年以降同期で集まる機会が増え、還暦間近の人生をエンジョイしています。

**青柳 靖元** (昭和48年卒) 47卒岩澤先輩に遅れること約1年、昨年5月から一念発起して減量に取り組んだ結果、約10Kgスリムになりました。リバウンドが心配ですが、成功の秘訣は、リングダイエットとご飯減らし及び1日1.5万歩ウォーキングです。日野原重明先生（医師）を見習い、生涯現役100歳健康長寿をめざします。

**石川 ゆり子** (昭和48年卒) 当番幹事だった昨年の今頃は、ささらほうさらでした！あっという間に1年経ち、月例幹事会の名残のように同期で集まる機会も増えて、交流を楽しんでいます。皆様の健康とご家族の健康、地球の健康を祈っています。

**遠藤 裕紀** (昭和48年卒) 最近、温泉が好きすぎて困っています。露天風呂なら最低でも一時間は入っていたいですね～。今年の甲府同窓会に参加した時には、「要害温泉」に立ち寄りました。景色の良い露天風呂のある「ほったらかし温泉」「天空の湯」「みたまの湯」「パノラマの湯」にも行ってみたいと思っています。

**八田 政仁** (昭和48年卒) 昨年、当番幹事が無事終わり、その後は同期とのイベントが月一ペースで開催されるので、なるべくそれに参加して楽しんでいます。また、来年の第九の発表会に向けて、一生懸命練習しています。皆さんもどうですか？

**廣瀬 昭仁** (昭和48年卒) 休日も返上し、幹事会一丸となって同窓会の準備に取り組んでいた頃が懐かしく思い出されます。当番幹事を終えた後も、なんだかんだと遊びの企画で集まっては同窓の仲間と交流を深めています。（これが大切ですね） さて次の企画は・・・？ お楽しみに！

**雨宮 絹枝** (昭和49年卒) 今、一高で同窓会とPTAの係をしています。校舎は変わりましたが、昔と同じ風が教室には吹き、懐かしさを感じます。私がそうだったように、生徒にも高校生活を一高で過ごしてよかったと思ってもらえるように努力したいと思います。

**込山 富秀** (昭和49年卒) 10年ほど前からハマっている卓球、真空管オーディオ作り。両方とも一高時代に手を染めて以来の復活です。子供はまだ小6、小2、ジイさんが孫をかわいがる理由がわかります。

**軽石 泰孝** (昭和50年卒) 私は30歳の時にソフトウェア開発会社を立上げ、現在に至っています。昨今の不景気には閉口してしましますが、時々同期の皆と会うと元気をもらい、強行遠足での達成感を思い出しながら、また頑張る力が湧いてきます。同窓生って有難いですね。

**窪田 治美** (昭和50年卒) 仙台に一高の後輩で僧越ですが我が従弟が住んでいます。さいわい東日本大震災の直接的被害はなかったようですが、ライフラインの復旧まで時間を要した由です。 こんな時こそ伝統ある一高に思いを寄せます。

**堀内 寛雄** (昭和51年卒) 日本の近現代の政治家等が残した文書（手紙・日記・書類）を収集して公開する仕事を続けています。伊藤博文・山県有朋など明治の元老のみならず、母校の先輩石橋湛山の資料に関わる幸運にも恵まれました。

**小川 朗** (昭和53年卒) 首都圏甲府会事務局、県人会連合会 facebook、「甲斐ゴルフクラブ」コンベ運営をお手伝いをさせていただいております。東京スポーツ、中京スポーツ、大阪スポーツ、九州スポーツに広告出稿の折には勉強させていただきます。（現広告局長）

**仲田 道弘** (昭和53年卒) 昭和53卒の学年同窓会は、2年前の当番学年幹事を終えた後も活動を続けています。10月の強行遠足への協力、1月の新年会、4月の桃の花見会など…。4年後の東京同窓会に向けて、甲府からも応援させていただきます。

**勝村 良一** (昭和53年卒) 甲州ワインの欧州輸出プロジェクト（KOJ）を支援しています。今年も2月にロンドンとパリにプロモーションのお手伝いに行ってきました。山梨の魅力为首都圏にPRする「ビタミンやまなしキャンペーン」も実施中です。

**相山 豊** (昭和55年卒) 皆さんは「ファミリービジネス（同族企業）」についてどう思っているでしょうか。オーナーが勝手な経営をして業績も悪いというイメージに反して、ファミリービジネスの業績は一般企業よりいいのです。このあたりの理由を昨年から明治大学ビジネススクールで教えています。（東京都千代田区在住）

**野澤 俊英** (昭和61年卒) 英語の教員として、甲府一高に赴任して3年目です。昨年度から英語科（21期生）の担任をさせて頂いております。微力ですが、全力を尽くしたいと思います。日々、母校の教壇で後輩たちに教えられる幸せを感じています。

**\*お詫び** FAXで寄稿いただいた方の中で機器の不調により、未着になった原稿が出ました。氏名・内容が読み取れないため確認できず掲載できない原稿が出ましたことを深くお詫び申し上げます。

# 100字近況

ホームページ入力、FAXなどで6月中旬までに投稿いただいたものを掲載しています。

**小池 治道** (昭和20b年卒) 山梨県立甲府中学校を、今を去る67年前に横須賀の軍事工場で卒業して以来、片時も忘れたことのない故郷の景色は、あの堂々たる鉄筋の校舎と甲府の西山の夕景色でした。超チビだった中学生にとって、いつも見上げていた私の人生の先生です。

**斉藤 芳樹** (昭和33年卒) 「畑は恋人」退職して始めた野菜作りも七年目を迎えた。当初は友人から七坪ほどの畑を借り楽しんでいましたが、今では八十坪ほどの広さになり、約四十種の野菜を育てている。四季を感じながら種を蒔き、育て、収穫し、それを産直として妻と知人に食してもらう。こんな楽しみ今しかできない。感謝、感謝の毎日です。

**大西 勉** (昭和34年卒) 3年+12年+11年。母校にお世話になった年数だ。最初は生徒、次は母校職員、三つめは同窓会事務局長。なんと四半世紀母校に係わらせていただいた。高邁な見識、人格をもった後任が見つかったので、あと一期だけご奉公して、余生は「一高もやま話」でもあこうかなと考えている。

**藤野 早苗** (昭和35年卒) 多摩市にある恵泉女学園大学を定年退職し、今は名誉教授として大学の公開講座で、60代を中心とする熱心な受講生と一緒にアメリカ文学を原書で読んでいます。大学のホームページを見て、参加してみませんか。

**河原 道雄** (昭和37年卒) 2002年にカラオケ好きが高じてCDを出してから、歌手として毎日唄っています。昨年の大震災被災地を応援する歌「生命（いのち）」を自分の作詞・作曲で作り昨年9月に発売、その印税を義援金に回しています。カラオケで唄えます。応援下さい。

**廣池 哲夫** (昭和37年卒) 本同窓会では、年二回有志によるゴルフコンベを開催しています。年2回、50歳代から80歳代までの同窓生50有余名が和気あいあいの中で同窓の縁を深めています。新ペリアの個人戦のほか上位3名の学年対抗もあり、大いに盛り上がっています。奮っての参加をお待ちしています。連絡先 hiroike\_yokohama@ybb.ne.jp

**大村 紘一郎** (昭和38年卒) 東日本大震災の液状化で斜面と化した我が家の床。宮沢賢治の物事を真っ直ぐ見る心に勇気もらい、拙著『八ヶ岳の空から、本当の幸せを求めて』を執筆しました。東北の被災地の方々との「絆」も求めて。

**山本 秀彦** (昭和41年卒) 今年の当番幹事の協力を得て独自ドメインを取得し、東京同窓会のホームページを再構築いたしました。ITを活用して、同窓のネットワークを更に広げて行きたいと思っています。ご協力をよろしくお願い致します。

**永井 博** (昭和42年卒) よん燦会（43年卒）では、還暦以降、強行遠足&小諸の夜、西沢渓谷&塩山温泉、サントリー山崎&京都時代祭、サントリー白州&八ヶ岳と毎年泊まり込みのイベントを続けています。歩き、飲み、唄う。元気澁刺の団塊世代です。

**池田 秀雄** (昭和43年卒) 昭和35年石橋湛山元総理をはじめ時の政財界重鎮が上野の森で鶴城を唄い、東京同窓会は始まった。多数の老若男女が一堂に会し、初めてでも同窓の絆で垂直に交流出来る場の継続を願い、若い方の参加を強く望みます。

**市村 一司** (昭和45年卒) この3月に公立高校の教員を定年退職し、4月から山梨秀峰調理師専門学校に勤めています。いままでの経験を生かしながら新しい職場で挑戦し続けています。高卒以上の生徒が対象なので非常に勉強になります。

**斎藤 幸三** (昭和45年卒) 迫りくる超高齢社会・60歳の起業。株式会社かい援隊本部。迫りくる超高齢社会、介護人材不足も深刻。2025年には100万人不足の予測も。そこで、「介護現場の助っ人に元気高齢者」を合言葉にこの4月にスタート。詳しくはかい援隊本部のホームページをご覧ください。

**清水 一彦** (昭和45年卒) 筑波大学理事・副学長の4年目です。今年度は教育担当から総務・人事担当となり、国立大学の未曾有の給与削減問題に取り組んでいます。人づくりを無視した緊縮財政は日本を滅ぼします。応援をよろしくお願いします。

**小川 早苗** (昭和47年卒) 昨年ミラノのオーデイトリウムでヴェルディのレクイエムを歌ってきました。プロのオーケストラとの共演は最高の体験でした。この4月には夫が定年となったのを記念して桜の奈良を歩きました。人の少ない法隆寺で国宝をゆっくり楽しめました。

**玄間 稔** (昭和47年卒) 当番幹事から2年、定年まで1年となった現在、定年延長するか、ボランティアNPO活動に転身するか迷っています。家庭では、息子が結婚、国際結婚のため3月と4月に両国で結婚式を挙げ、現在二世帯住宅購入を検討し始めました。



# 広告目次

**ス**  
 (有)スターシップ・コーポレーション…………… 49  
 住友不動産(株)…………… 51

**ソ**  
 相武カントリー倶楽部…………… 51

**タ**  
 泰和電気工業(株)…………… 51  
 高坂カントリークラブ…………… 41  
 (株)ダイタ…………… 37

**チ**  
 中央葡萄酒(株)…………… 46  
 千代田セレクトニールグループ…………… 表 3

**テ**  
 天宮の老舗 天國 (有)甲斐國…………… 33

**ト**  
 東京三五会…………… 49  
 東京36会…………… 49  
 東京38会…………… 49  
 東京エレクトロン山梨(株)…………… 46  
 (株)東京會館…………… 34  
 東京リベルテ法律事務所…………… 53  
 (株)東興…………… 30

**ナ**  
 (株)中嶋文夫+D・A設計事務所…………… 50

**ニ**  
 新潟県ハイヤータクシー協会…………… 53  
 西山温泉慶雲館…………… 47  
 日本出版販売(株)…………… 47  
 日本テクノ・ラボ(株)…………… 35  
 日本テレビ放送網(株)…………… 42  
 日本パーキング(株)…………… 42  
 (財)日本盲導犬協会…………… 33

**ノ**  
 医療法人社団孝和会 能見台パトリア…………… 33

**ハ**  
 (株)早野組…………… 42  
 飯能ゴルフクラブ…………… 47  
 伴野内科クリニック…………… 50  
 (株)はくばく…………… 51

**ヒ**  
 平井幸男事務所…………… 53  
 工房ピオ…………… 53

**フ**  
 富国生命保険相互会社…………… 43  
 富士観光開発(株)…………… 52  
 富士急行(株)…………… 3  
 藤沢脳神経外科病院…………… 33  
 (株)ブティック社…………… 38  
 北海道テレビ放送(株)…………… 50  
 ホテル内藤グループ…………… 40  
 医療法人瀧田会 丸山荘病院…………… 43

**マ**  
 (株)三井住友銀行…………… 50  
 みぞべこどもクリニック…………… 47  
 宮脇車両工業(株)…………… 32  
 ミンクマジック…………… 33

**メ**  
 (株)明文館…………… 53  
 盟和産業(株)…………… 37

**モ**  
 しるし屋さん東洋堂 (有)モテギ…………… 53

**ヤ**  
 医療法人社団慈広会 矢崎病院…………… 48  
 (株)山梨県環境科学検査センター…………… 43  
 山梨県東京事務所…………… 52  
 (株)山梨中央銀行…………… 44  
 (有)山梨パッケージ…………… 48  
 (株)山文…………… 33

**ユ**  
 (株)ユニフォンプレスインターナショナル…………… 53

**個人協賛**  
 佐野 允夫 (昭和40年卒)…………… 53  
 原 護 (昭和40年卒)…………… 53  
 清水 昭 (昭和44年卒)…………… 53  
 大久保正博 (昭和47年卒)…………… 53  
 依田淳一 (昭和47年卒)…………… 53  
 藤原茂樹 (昭和49年卒)…………… 53  
 島田敏男 (昭和52年卒)…………… 53

**ご協賛、**  
 誠にありがとうございました。  
 昭和四十九年卒一同

**ア**  
 (医)健寿会 あきやま医院…………… 52  
 荒川外科肛門科医院…………… 40  
 R&Cソリューション総合研究センター…………… 52

**イ**  
 (株)飯島…………… 52  
 石原ヒサシ DANCE SCHOOL…………… 48  
 伊藤・遠藤・高野・野崎法律事務所…………… 44  
 伊藤忠ユニダス(株)…………… 44  
 (株)印傳屋 上原勇七…………… 38

**ウ**  
 (株)うちだ…………… 52  
 うじはらクリニック…………… 52  
 内田クリニック…………… 40

**エ**  
 塩澤寺…………… 52

**オ**  
 大泉はなわクリニック…………… 44  
 おぐちこどもクリニック…………… 41  
 (株)Thyssen Krupp Otto…………… 38  
 小野浩道税理士事務所…………… 48

**コ**  
 甲一東京46会…………… 44  
 甲府一高東京43会(よん燦会)…………… 48  
 甲府一高東京51会一同…………… 52  
 甲府脳神経外科病院…………… 52  
 国際建設(株)…………… 45  
 (株)コスモエナジー…………… 51  
 (有)後藤設計室・アーキシップ帆…………… 50

**ク**  
 くぼた内科胃腸科医院…………… 52

**ケ**  
 (株)京葉マツヤデンキ…………… 33  
 (株)現代建築研究所…………… 52

**キ**  
 樹之下知的財産事務所…………… 50  
 (株)協和エクシオ…………… 41  
 京島クリニック…………… 52  
 金櫻神社…………… 52

**カ**  
 (株)カコー…………… 45  
 笠井收法律事務所…………… 48

**カ**  
 (株)カコー…………… 45

**ク**  
 (株)京葉マツヤデンキ…………… 33  
 (株)現代建築研究所…………… 52

**コ**  
 甲一東京46会…………… 44  
 甲府一高東京43会(よん燦会)…………… 48  
 甲府一高東京51会一同…………… 52  
 甲府脳神経外科病院…………… 52  
 国際建設(株)…………… 45  
 (株)コスモエナジー…………… 51  
 (有)後藤設計室・アーキシップ帆…………… 50

**ケ**  
 (株)京葉マツヤデンキ…………… 33  
 (株)現代建築研究所…………… 52

**キ**  
 樹之下知的財産事務所…………… 50  
 (株)協和エクシオ…………… 41  
 京島クリニック…………… 52  
 金櫻神社…………… 52

**カ**  
 (株)カコー…………… 45  
 笠井收法律事務所…………… 48

**サ**  
 さいとうクリニック…………… 53  
 境川カントリー倶楽部…………… 49  
 (株)澤田屋…………… 50  
 山日YBSグループ…………… 49  
 サンリオピューロランド (有)サンリオ…………… 表 2

**シ**  
 NPO法人 C&Cクラブ…………… 51  
 (株)システムインナカゴミ…………… 46  
 いなり寿司 清水家…………… 53  
 産科婦人科 清水クリニック…………… 50  
 シミック(株)…………… 36  
 (株)ジャステック…………… 表 4  
 (有)ジャパンアートメモリー…………… 53  
 湘南地区同窓会…………… 51  
 昭和41年卒業生一同…………… 53  
 昭和47年卒業生一同…………… 46  
 昭和48年卒業生一同(甲府一高48クラブ)…………… 36  
 昭和49年卒有志一同(甲府49会)…………… 45  
 昭和49年卒有志一同(東京49会)…………… 39  
 昭和50年卒業生一同…………… 51  
 新宿公証役場…………… 53

# イベント奏者の紹介

ギター演奏 **相川 達也** さん (昭和49年卒)



一瀬純一、中林淳真、エルネスト・ビテッティ、ホルヘ・アリサ、ホセ・ルイス・ゴンサレスの各氏に師事。1975年よりスペイン留学。スペイン王立マドリッド音楽院ギター科卒業。卒業後渡米。ニューヨークのマンハッタンギター音楽院教授に就任。1984年帰国。以後毎年春に東京、秋に甲府で定期リサイタルを開催。1996年 CD「ラ・ボアシエ」を発表。2005年6月 セカンドCD「リサイタル」を発表。独奏および室内楽の分野で国内外で活躍中。相川達也ギター教室主宰。



山梨県内の高校や短大のマンダリンクラブのOGが中心になって2000年に結成された、主婦によるマンダリン・アンサンブルで甲府一高OGも加入しております(全23名)。「プリランテ」とはイタリア語で「輝いて、輝きを持って活発に」という意味があり、常にそうありたいという願望をもって命名されました。2011年1月に第5回を数えた「かがやきコンサート」をメインに、社会貢献として福祉施設などでのボランティア演奏、甲府市文化祭への参加、公共施設でのロビーコンサートなど演奏活動を行っています。2005年より相川達也氏が常任指揮を務めています。

友情出演 **宮崎 仁** さん (パーカッション)

甲府市出身。東京芸術大学音楽学部打楽器科卒業。シエナ・ウインド・オーケストラ創立メンバー。アコースティック・バンド「G-クレフ」メンバー。1990年、G-クレフのアルバム「五右衛門」が日本レコード大賞アルバム企画賞受賞。同年NHK「紅白歌合戦」に初出場。1993年 渡米ポピー・サナブリア氏に師事。

箏演奏 **山下 一恵** (山下名緒野) さん (昭和49年卒)



幼少の頃より母都築登声に箏の手ほどきを受ける。1972年 鳥居名美野先生に師事(現在に至る) 1974年 東京芸術大学音楽学部邦楽科入学 1978年 同大学卒業 1980年 NHK邦楽技能者育成会第25期修了 1984年 河東節萩江節の三味線を山彦さわ子先生、萩江さわ子先生に師事。 1985年 文化庁国内研修員に任命。 2007年~2009年 東京芸術大学非常勤講師 現在 洗足学園音楽大学組歌講座講師 NHK「邦楽のひととき」「邦楽百番」「邦楽花舞台」に出演。

表紙作者：**込山 富秀** さん (昭和49年卒) 電通アートディレクター

約40年ぶりに校舎の教室に入ってみた。残念ながら当時の校舎ではない。空間的位置はほぼ当時と同じはずである。一人4階の教室の引き戸を開ける——窓からこんな素晴らしい景色が広がっていたとは、い。あの頃の自分はいったい何を見ていたのか、ああ恥ずかしい。 続きは別冊「美咲めぐり」でお楽しみください。

サントリー new オールド 「恋は遠い日の花火ではない」・JR東日本「もっと2」「ジャンジャカジャー」、ICカード「Suica」導入キャンペーンなどを手がける。フルムーン、青春18きっぷのポスターは今も続く。40代は京都造形芸術大学、東京芸術大学で講師を歴任。



## 幹事のつづやき

甲府中学出身の父は、甲府での同窓会幹事の年齢にはすでに病床にあり、その後他界しました。一高卒の長男は、やがて幹事の年齢に達すれば、きつとながしかの役割を果たすでしょう。僕は幸いにも、甲府と東京で三回も総会のお手伝いをする機会に恵まれました。特に今回は、いにしえの心(父)と新しき智慧(長男)とをつなぐ架け橋になればと思ひ、参加させていただきました。

相川 達也

土曜日集まれ。夜集まれ。会合の多い事。私 そのあたりの時間が仕事忙しいんですけど。まあ、そうは思いつつ、あまりに久しぶりな面々との作業で新しい友人ができたような楽しみもあり、ラストまでがんばります。

今澤 晋

本日、盛大な東京同窓会が開催できますのも多大なご支援を頂きました同窓生の皆様、広告を出して頂きましたスポンサーの皆様、毎年ご協力を頂いて下さる東京会館様など多くの皆様のお陰と厚くお礼申し上げます。昨年同窓会の準備を始めましたが、一時はどうなる事とかと思う事もありました。しかし同級生の持ち味を生かしたスクラムで一つ一つ乗り越える事ができ、同窓会準備を通じ仲間の絆という貴重な財産を得たと思ひます。

小田 切信

窪田 三枝

山梨からの参加でありお役に立てませんでした。得たものがありました。それは高校三年間で関わる事になった方と出会い、親しくなれた事。同窓生という響きの魔法でしょうか？そして皆が人生で培ってきたものを持ち寄り、ぶつかりながらも拘りを持って作り上げた同窓会と記念誌が出来上がる過程に立ち会えた事。これは幹事にしか味わえない貴重な体験でした。

窪田 由起子

専門主婦歴三十二年の私も「少しはお手伝い出来れば」とがんばりました。高校時代の仲間と充実した時間を過ごさせて頂きました。

近藤 厚子

地元以外の地域で大きな同窓会組織を持つ高校は日本広しと雖も、多くはない。今更ながら、伝統校の懐の深さを感じている。今回の東京同窓会開催準備に、甲府在住ながら携わることができた事には不思議な縁を感じている。特に、在校時には言葉を交わしたこのない友人達と語り合えた事は有益であった。住職という職業柄、他県の友人達と顔を合わせる機会がなかったが、これを機に大いに交流したいと思う。いずれは、同窓生となる息子と共にこの同窓会に出席したい。

佐藤 光政

平成八年のサブ幹事から、あつと言つ間に十六年が経ち、幹事年度が廻って来ました。最初は不安で一杯でしたが、東京同窓会の役員の皆様や先輩、何よりも四十九年卒の仲間の協力のお陰で、第五十三回の東京同窓会を無事開催する事が出来ました。本当にありがとうございます。

清水 喜彦 (幹事長)

一紅会何て名前も知らなかったのに、パソコン何て使う事も無かったのに、ちょっとお願いの一言で乗せられてしまいました。神輿は軽い方がいいなんてね。

今では、パソコンオタクと言われるまでになっています。卒業して四十年近く、初めて顔を合わせた女性達も今では女子会で盛り上がり、一泊温泉旅行の計画中。二度目の修学旅行も夢ではないかもです。新しい仲間に出会えたことに感謝。

瀧田 智子

今年、本会のホームページを含め、オリジナルドメインを取得し、全体のシステムを構築。ホームページの貸家暮らしから、持ち家を持ちました。安くしたり、なんでも自分で造らなければならぬ、泥沼化してあります。事務局長には急かされるし、何でもホームページが万能だと思われても…。来年以降の当番幹事の皆さん盛り立ててください。

竹内 浩一

今回幹事長からお誘いいただき、準備に参加致しました。昼夜の打合わせで先輩方にあたたかみを感じていただき多謝。一高の伝統を改めて痛感する日々でした。一高生でよかったです！

武内 信二 (昭和五十二年卒)

一高を卒業して甲府を出てから三十八年、自動車会社での会社生活も三年後には定年を迎えます。今年の一高東京同窓会活動を手伝う中で、山梨からの応援も含めて懐かしい仲間にも会うことができました。同期一同結束して無事に東京同窓会を開催して、来年からは同期で気楽に美味しいお酒を飲みたいと思っています。

永嶋 幸弘

広告担当の幹事でしたが、ほとんどお役に立てず恐縮です。部長ほか応援して頂いた皆さまのお陰です。感謝しております。当日は救護班を命ぜられました。活動の場がないことをお祈りしております。

永島 淳一

当番幹事メンバー・一高OB皆様のご協力により、広告部会長の責を何とか果たすことができました。正直広告営業活動は思いのほか大変ではありましたが、清水幹事長の力強いバックアップと先輩各位の励ましで目標をクリアすることができました。多くの方とお話する中で、故郷や母校への熱き思いを感じることができました。この貴重な経験を大切にして、一高の伝統を継承しこれからも頑張りたいと思ひます。

新田 陽一

齢五十代の後半をむかえ、「どんなでもない事が始まったぞい。どうしよー」が第一声！時間の経過とともに何とかなるさ、みんないるんだからと思えるようになってきたのが不思議なものだ。この機にPCも購入し、悪戦苦闘！打ち合わせの後の飲み会だけが楽しみな、邪な幹事です。ごめんなさい。でも楽しかったな。一高の三年間に感謝です。これからゆっくり余生を楽しめそうな仲間と再び出会いました。一高パンザイ。

広瀬 高行

清水幹事長の鶴の一声で事務局を担当することになりました。担当始めて感じたことは、当り前ではありませんが各部会長及び幹事の方々と顔を合わせたコミュニケーションは月に一回程度の幹事のみ。従って幹事の方々との意思疎通が非常に重要であり、かつこれがうまくいかないために暗礁に乗り上げている問題が多々発生しています。この点事務局としての力不足を痛感しております。何はともあれ無事七月十四日が成功裏に終了しますように！

保坂 明彦 (事務局長)

お世話になった甲府一高への恩返しとの気持ちから幹事を引き受けました。高校時代一言も話をしたことのない人、卒業以来久しぶりに会った人、でも全く違和感なく甲州弁丸出しで楽しんでやることができました。

細田 和孝

## 白球が取り持つ同窓の絆

本同窓会では、ゴルフ愛好者によるコンペ「日新会ゴルフコンペ」を春と秋の2回開催しています。場所は八王子の相武カントリー。今春は26年卒から48年卒までの47名が参加して、和気藹々のうちに一日を楽しみました。女性の参加者も増え、前は8名でした。先輩後輩が混じる組合せで甲州弁も飛び交う中、3,4ホールを回る頃には、20数年の隔たりもすっかり打ち解けて、同窓の絆で結ばれます。競技は、各学年上位3名のグロスによる団体戦(卒業年次によるハンデあり)と新ベリアによる個人戦です。腕に自身のある方はもちろん、H.C.を一杯持っている方も気軽に奮って参加してください。女性の方ももちろん大歓迎です。興味のある方、もう少し詳しく知りたい方は、下記に気軽にお問合せ下さい。

日新会事務局担当 荒井 彌征 〒194-0033 東京都町田市鶴川 6-9-12 406  
電話&FAX 042-708-8835 E-mail anb03306@nifty.com

松本 博美

平成二十四年度当番幹事

# 昭和四十九年卒

幹事長

清水喜彦

広告部会

新田陽一 網倉 洋 小河敏彦

会計部会

永島淳一 輿水良太(平成十六年卒)  
細田和孝 窪田由起子

懇親部会

小田切信 相川達也 永嶋幸弘

細井 一

会員増強部会

今澤 晋 飯室明洋 佐藤光政

日新鐘部会

広瀬 高行 込山 富秀

武内 信二(昭和五十二年卒)

甲府部会

中込 裕 三澤美弥子 佐藤茂樹

橋田 恭 遠藤正記

一紅会

瀧田 智子 窪田三枝 山下一恵

I T 部会

竹内浩二

事務局

保坂明彦 松本博美 小林久美子

網倉真美子 小林正信 近藤厚子

藤井順子 ローソン笹本宏美

吉田幸江

タマニハ  
コーシ!



S49  
甲斐犬の  
イチコウ

## 編集後記

今年の東京同窓会誌は「伝えよう、いにしえの心、新しき智慧」というテーマで編集を進めてまいりました。打ち合わせを始めた当初は何から手をつければ良いのかと・・・、しかしながら、諸先輩からの熱きご寄稿と広告、ふるさとからの知らせ(一高この一年・在校生の「私の夢」・強行遠足記)に元気をもらいました。また一紅会での井上先生の貴重な講演内容も掲載いただき、会誌の姿が見えてくるに従い伝統ある同窓会活動に参加できたことに喜びを感じ、一高で過ごした風景・友人達が蘇ってきました。昨年の東日本大震災・福島原発事故は、私たち一人一人が今までの生活・考え方を初心にかえり見つめ直す機会となりました。本誌が何かを誰かに伝えるきっかけとなれば幸いです。最後に、編集にあたりご協力いただいた有限会社スターシップ・コーポレーション様には、心より御礼申し上げます。

武内 信二

まず、日新鐘の寄稿に快諾していただいた方々に心より感謝いたします。

「幹事長から「日新鐘の担当を頼む」の一言 さて、何から手をつけたらいいのかな。戸惑いから始まった日新鐘部会でした。

前年度の担当者から引き継ぎ、難しいことではないからと言う言葉が、成し終えた人達が言える余裕に見えたものでした。

最近「あまり新しい事に挑戦しなくなっていたなあ」と感じ引き受けました。

同窓生という連帯感を強く感じ、頼もしく思いつつ、この絆を繋げる責任を痛感しました。

毎年この日新鐘が発行されることが如何に大変な事なのか！いまままでの幹事の方々に敬意を表します。

全てを読んで、多彩な先輩諸氏の思いを感じ取っていただいたら、新旧のつながりがより深くなると確信しています。

最後に楽しい?時間を共有した幹事皆さんに「ありがとう」です。

広瀬 高行

### 2012 甲府中学・甲府一高東京同窓会記念誌 日新鐘 Vol.19

発行日：平成24年7月14日(土)

発行者：甲府中学・甲府一高東京同窓会

編集者：日新鐘記念誌部会

製作：有限会社スターシップ・コーポレーション 〒400-0117 山梨県甲斐市西八幡3987-30 TEL.055-267-8022

印刷所：ユニプリント株式会社 〒399-3302 長野県下伊那郡松川町生田900-1 TEL.0265-34-1515



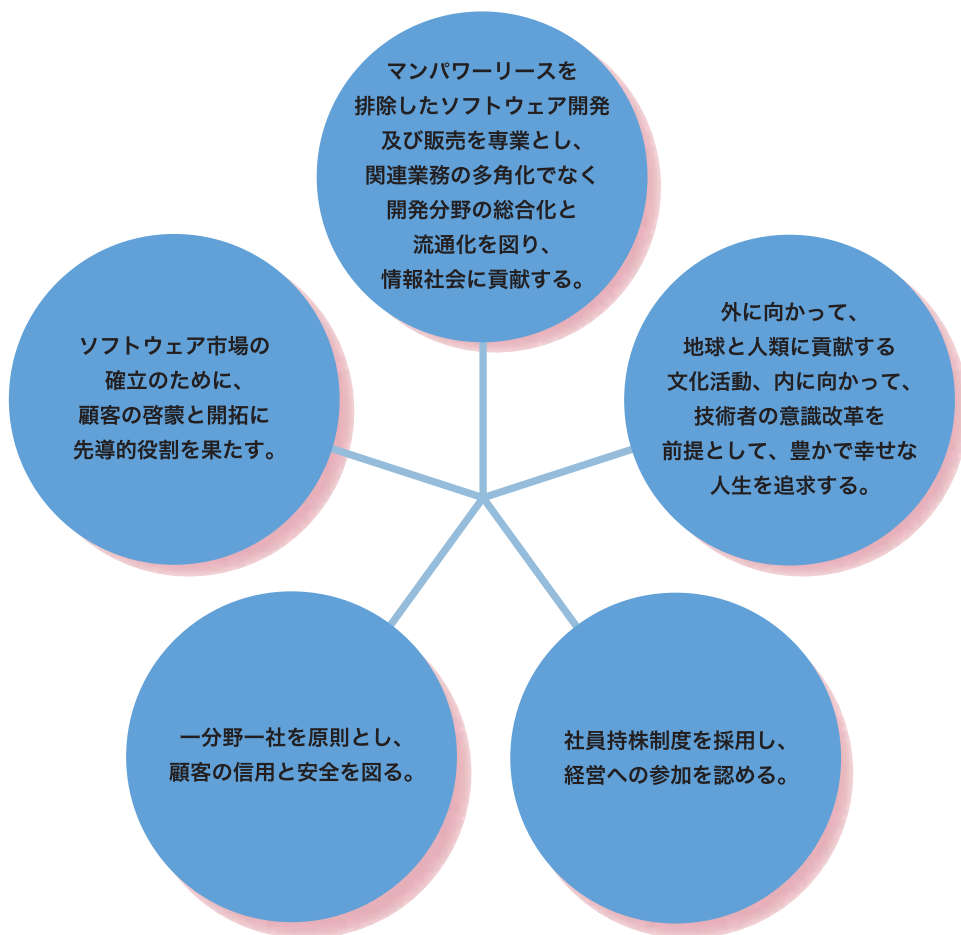


## 当社のキャラクター【柳小面】

この能面は、金春の座付きであった大藏彌右衛門虎明（慶長七年の時六歳）の書いた「わらべ草」「登髭」「金春小面と同じ作、同木にて打たる面也、今ノ金春小面ハ柳ナリ」とある小面のことと云われている。池田家伝来。

この能面を、演者で製品の提供者である（株）ジャステックと鑑賞者で製品の使用者であるお客様とを結ぶキャラクターとして採用しました。

## 経営理念



株式会社

ジャステック

取締役会長 神山 茂（昭和30年卒）

〒108-0074 東京都港区高輪3-5-23 TEL.03(3446)0295(代表)  
ホームページアドレス <http://www.jastec.co.jp/>